

第11回 全国児童館・児童クラブ北海道大会 報告書



平成23年10月22日(土)~23日(日)
会場 札幌コンベンションセンター

目次



開催要項	1
大会日程	2
全国の遊びの紹介 「あそびの日本一周どうでShow」	4
オープニングセレモニー ～今だからこそ～	5
「じゃ～んずΩ」パフォーマンス 特別報告会 東日本大震災における児童館・児童クラブの役割	7
分科会	8
交流会	19
ミニシンポジウム	20
エンディングセレモニー ～子どもたちの笑顔と元気をはっしん～	23
北海道大会 発議文	24
韓国・中標津町なかよし児童館・札幌市東札幌児童会館の交流事業	25
協賛企業	26
スタッフ役割一覧	27
実行委員・企画運営委員	28
大会までの軌跡すごろく	30
開催関連記事	32

開催要項

テーマ 『こころひとつに 北の大地から“元気”はっしん!!』

日時 平成23年10月22日(土)・23日(日)

開会：10月22日(土) 午前11時～ 閉会：10月23日(日) 正午 終了

全国の遊びの紹介『あそびの日本一周どうでShow』

※10月22日(土) 午前10時～午後2時

開催場所 札幌コンベンションセンター(札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1)

〔オープニングセレモニー、分科会、交流会、ミニシンポジウム、エンディングセレモニー〕

イーアス札幌(札幌市白石区東札幌3条1丁目1-1)

〔全国の遊びの紹介『あそびの日本一周どうでShow』〕

主催 財団法人 児童健全育成推進財団、全国児童厚生員研究協議会、
北海道児童館連絡協議会、財団法人 札幌市青少年女性活動協会

共催 財団法人 児童育成協会

主管 第11回全国児童館・児童クラブ北海道大会実行委員会

後援 厚生労働省、北海道、札幌市、
社会福祉法人 全国社会福祉協議会、財団法人 こども未来財団、
全国地域活動連絡協議会、民間児童館ネットワーク、
財団法人 北海道青少年育成協会



大会日程



1日目 10月22日(土)

9:45~10:45	開場・受付 会場：札幌コンベンションセンター
10:00~14:00	全国の遊びの紹介「あそびの日本一周どうで Show」 会場：イーアス札幌 Aタウン1Fイーアスコート
10:45~11:00	歓迎セレモニー ～北海道の児童館をスライドで紹介！～ 会場：札幌コンベンションセンター 大ホール
11:00~12:30	オープニングセレモニー ～今だからこそ～ 開会式 ■開会宣言 第11回全国児童館・児童クラブ北海道大会 実行委員長 小川 敏雄 ■主催者挨拶 財団法人 児童健全育成推進財団 理事長 鈴木 一光 北海道児童館連絡協議会 会長 西田 雅之 ■開催地挨拶 北海道保健福祉部子ども未来推進局 局長 宮田 康宏 様 札幌市 副市長 渡部 正行 様 ■来賓挨拶 厚生労働省 雇用均等・児童家庭局育成環境課 課長補佐 鈴木 健吾 様 「じゃ〜んずΩ」パフォーマンス 特別報告会「東日本大震災における児童館・児童クラブの役割」
12:30~13:30	休憩・移動
13:30~17:30	分科会「たくさん話そう！！たくさん聞こう！！」 札幌コンベンションセンター 各会議室 ① 児童館の可能性 ② 地域ネットワーク ③ 子どもの育ち ④ 親育ち支援 ⑤ 中学生・高校生の居場所づくり ⑥ ボランティア ⑦ 遊び ⑧ 命のメッセージ ⑨ 表現活動 ⑩ 野外体験活動
18:00~20:00	交流会 会場：札幌コンベンションセンター 大ホール

大会日程



2日目 10月23日(日)

9:15~9:30

ミニシンポジウム受付
会場：札幌コンベンションセンター 会議室

9:30~11:00

ミニシンポジウム
第1 シンポジウム 「遊び」
シンポジスト
☆札幌市教育センター 幼児教育担当係長 北 圭一 さん
☆財団法人 札幌市青少年女性活動協会
こども事業部こども育成課 児童会館担当課長 松岡 節子 さん
コーディネーター
★東京都中野区立キッズ・プラザ白桜 所長/児童健全育成指導士
千葉 雅人 さん

第2 シンポジウム 「地域」
シンポジスト
☆財団法人 児童育成協会 こどもの城 事業企画部長/児童健全育成指導士
佐野 真一 さん
☆中標津こどもクリニック 院長 栗山 智之 さん
コーディネーター
★財団法人 札幌市青少年女性活動協会 こども事業部長/児童健全育成指導士
寺田 陽子 さん

第3 シンポジウム 「職員の専門性」
シンポジスト
☆東京都杉並区 松庵児童館・宮前児童館 館長 片山 隆司 さん
☆北星学園大学文学部 心理・応用コミュニケーション学科 専任講師
片岡 徹 さん
コーディネーター
★中標津町 町民生活部子育て支援室長/児童健全育成指導士
高松 絵里子 さん

11:00~12:00

エンディングセレモニー ～子どもたちの笑顔と元気をはっしん～
閉会式
会場：札幌コンベンションセンター 中ホール

- 「中標津町なかよし児童館バトンクラブ」と「札幌市東札幌児童会館ポンポンダンス」によるコラボパフォーマンス
- 大会の振り返り～2日間の大会をスライドショーで振り返ろう
- 全体提起
全国児童厚生員研究協議会 会長 千葉 雅人
- 次回開催「あいち大会」への引き継ぎセレモニー
第12回全国児童館・児童クラブあいち大会 実行委員会
- 閉会挨拶（フィナーレ）
第11回全国児童館・児童クラブ北海道大会 実行委員会

「あそびの日本一周どうで Show」

場所：イーアス札幌 Aタウン 1Fイーアスコート
日時：10月22日 10:00～14:00

当日運営の遊びの紹介コーナー・遊びのレシピを含め、47都道府県のすべての「遊び」を紹介しました。

山形県からは、実際に6名の子どもたちが参加し「エコビーズアクセサリー」を紹介してくれました。山形県以外の都道府県の遊びは、札幌市内の児童会館で活躍する「子ども運営委員会」の子どもたちが担当し、地域のさまざまな遊びを紹介しました。愛媛県からは「みかんのかわDEアート」沖縄県からは「貝殻のアクセサリー」などが出店され、来場者に大人気でした。当日は、2千人を超える来場者で会場内は大盛況。コーナーを運営した子どもたちも来場者の多さに驚きながらも、かかわりを楽しんでいました。参加した子どもたちからは「もっと色々な地域の遊びが知りたい！」との声もあり、北海道以外の地域の遊びに触れる貴重な時間となりました。



第11回全国児童館・児童クラブ北海道大会で行った、「あそびの日本一周どうで Show」の中継や本大会のオープニングや分科会（一部）、エンディングの様子をUSTREAMを使ってネット中継しました!! 下記のアドレスから現在も視聴できます! ぜひ、ご覧ください。

<http://jidokanhkdpj.blog101.fc2.com/>



オープニングセレモニー ～ 今だからこそ ～

開会式



開会宣言 北海道大会実行委員長 小川 敏雄

全国各地の児童館・児童クラブの関係者のみなさま、本当によろこそ札幌においでくださいました。

また、イ・ギョンリムさんをはじめ韓国のみなさま、本当に遠いところありがとうございました。

子どもたちの豊かな成長を願って仕事をされている方々をここにお迎えすることができ、本当に光栄でございます。これから2日間有意義な結果になることを願っております。

それでは、第11回全国児童館・児童クラブ北海道大会を開催させていただきます。2日間どうぞよろしくお願いいたします。



主催者挨拶 財団法人 児童健全育成推進財団 理事長 鈴木 一光

北海道でこれだけの人たちが集まり、全国の児童厚生員の大会が開かれることに、本当に感謝しております。札幌市には中島児童会館という現存する日本最古の児童館があります。昨年度、児童館ガイドラインの検討委員に任命され、文献を調査する中で、中島児童会館建設に至る文書などから、児童館の意義を再確認いたしました。ぜひ皆様にも知っていただきたいことです。

ガイドラインの説明をさせていただきますが、子ども家庭福祉が大きな節目を迎え、今、制度改革の時期が到来しています。その中で児童館を取り巻く状況を考えると、ガイドラインをぜひ作りたいと思いました。子どもの健全育成が、今後、子ども家庭福祉改革の目玉となるよう児童館に注目が集まって欲しいと考えます。子どもの発達やそれに役に立つ遊びを、確信持って、保護者の方や地域の行政担当者に発信できるかどうかは児童館の大いなる発展がかかっていると思います。そういうことを確信しながら、普段の頑張りもお互いにたえながら、楽しい会にしたいと思います。



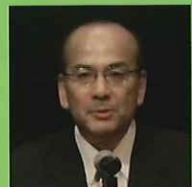
主催者挨拶 北海道児童館連絡協議会 会長 西田 雅之

最初に、東日本大震災により犠牲になられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに被災されたみなさまに対しまして、心からお見舞いを申し上げます。旭川市でも、少年非行の低年齢化や、少子高齢化などにより地域力の低下が懸念されています。子どもたちを取り巻く環境が大きく変化している中で、地域の拠点として、児童館・児童クラブの役割は高まっているものと思っております。この大会を通じ、みなさまと心をつなげて、児童館の未来を考え、児童館の大切さ、すばらしさを全国に発信できればと願っております。みなさまには、是非この機会に交流の輪を広げ、北海道の雄大な自然と豊かな味覚を楽しんでいただければと思います。開催にあたり、ご尽力をいただきました、全ての関係者に深く感謝申し上げますとともに、この大会が実り多いものとなることを祈念いたしまして、挨拶いたします。



開催地挨拶 北海道保健福祉部子ども未来推進局 局長 宮田 康宏

みなさまにおかれましては、地域における児童健全育成の拠点とも言うべき児童館・児童クラブにおいて、子どもたちの健やかな成長のため、多大なるご尽力をいただいていることに、深く敬意を表するとともに、感謝を申し上げます。近年、核家族化の進展等により、子どもたちを取りまく環境は大きく変化しており、出生率の低下、遊び場の不足、児童虐待の増加など、子どもたちの健全育成上憂慮すべき状況が続いています。道としては「北の大地☆子ども未来づくり北海道計画」を策定し、子どもの未来に夢や希望が持てる北海道を実現するため、子育てに向けた施策を積極的に進めています。子どもたちが遊び、過ごす場として、児童館・児童クラブは大変大きな役割を果たされており、みなさまの日々のご尽力により、子どもたちの活動は、より充実したものとなっております。今回で第11回目を迎える本大会を通じて、みなさまのスキルアップが図られるとともに、交流の輪がさらに広がり、実り多い内容となりますことをご期待申し上げます。



開催地挨拶 札幌市 副市長 渡部 正行

みなさまにおかれては、子どもの放課後健全育成及び留守家庭児童の安全・安心な居場所づくりに御尽力をいただき、心から敬意を表します。札幌市では「子どもの輝きがすべての市民を結ぶまち」という基本理念のもと、「さっぽろ子ども未来プラン」を策定し、子どもと子育て家庭を支援する総合的な取り組みを進めています。児童館・児童クラブの意義は、とても重要なものであると認識し、全ての小学校区に放課後の居場所の設置や、児童クラブについては、将来的に対象学年の拡大や、開設時間の延長なども視野に一層の充実に向けて整備を進めているところがあります。また、全児童会館に「子ども運営委員会」を設置し、子ども自身が施設運営にかかわり、主体性・社会性を育む取り組みも行っています。今大会でみなさまがそれぞれの地域で培った経験に基づき、活発な意見交換がなされ、有意義で楽しいひと時となることを願っています。また、札幌市での開催にあたり、関係のみなさまに深く敬意を表するとともに、御出席のみなさまのますますの御健勝と、本大会が成功裏に終わり、来年開催されるあいち大会へと引き継がれることを祈念し、挨拶とさせていただきます。

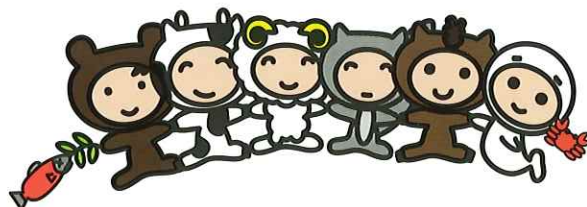


来賓挨拶 厚生労働省 雇用均等・児童家庭局 育成環境課 課長補佐 鈴木健吾

児童館・児童クラブは地域における子どもたちの放課後の育ちを支え、心身ともに健康で豊かな人間性を培う重要な拠点と考えております。みなさま方が、子どもと子どもを結び、社会的な遊びを通して子どもたちの自主性・社会性・創造性を育み、子どもの遊びを通じた健全育成に積極的に取り組んでいただくとともに、多くの大人・子どもと接し、さまざまな体験を提供していただくよう、この場をお借りしてお願い申し上げます。

現在、ガイドラインを参考にしまして、内閣府において、すべての子どもに良質な成育環境を保障、また、子ども子育て家庭を社会全体で支援するという子ども・子育て新システムが検討議論されております。放課後児童クラブやその他子育て支援事業を基礎自治体である市町村において実施すること、また、財源や事業を一元化して行うことが検討されています。

この2日間の研修を機会に今一度児童館の機能や役割、そして今地域で児童館に求められていることを明確にいただき、みなさまそれぞれがさらなる躍進に向けて目標を見出していいただければ幸いです。



じゃ〜んずΩ パフォーマンス♪

ステージでは、高校在学中から札幌の児童会館を利用していた「じゃ〜んずΩ」がパフォーマンスを披露し、学生時代に悩みや葛藤していた時に、職員からの温かい言葉かけに心が救われたことなどを語ってくれました。

そして、感謝の気持ちからできた歌が「ありがとう」です。

参加者と一緒に歌った「ありがとう」のフレーズが会場に広がりました。



じゃ〜んずΩは、日本の男性5人組アカペラボーカルグループで、出身は北海道。「道産子アカペラグループ」として、全国各地で活動しています。2004年5月1日結成。2008年4月「青春アカペラ甲子園全国ハモネプリーグ2008春」に出場し全国優勝を果たしました。

特別報告会 「東日本大震災における児童館・児童クラブの役割」

～ つたえよう・つながろう 私たちにできることを！ 未来に向かって！ ～



平成23年3月11日（金）マグニチュード9.0を記録する巨大地震。

それに伴う大津波等により、東北地方を中心に壊滅的な被害をもたらしました。

児童館・児童クラブも大きな被害を受け、子どもたちの大切な居場所も一瞬にして失いました。

児童館・児童クラブの職員として、何ができるのか？

震災を経験した方々からの声や映像とともに参加者一人ひとりが心の中で考えました。

それには答えはありません。

子どもたちの未来に思いを寄せて、それぞれが考え、行動をしていく中で、はじめて答えが見えてくることでしょうか。この経験を大切に、人と人がつながることで生まれる大きな力で、子どもたちの笑顔をいつまでも。



分科会

☆ 第1分科会 児童館の可能性

挑戦！児童館のもつ可能性を求めて！

～それぞれの立場で本音を語ろう 児童館改革は、ここからはじまる

☆ 第2分科会 地域ネットワーク

CNB47 ～日ごろからのネットワーク～

※C⇒コミュニティ（地域） N⇒ネットワーク B⇒話す場（BA） 47⇒47都道府県

☆ 第3分科会 子どもの育ち

今を生きる子どもたちへ ～自分が自分でいられるために～

☆ 第4分科会 親育ち支援

「親」が育てば「子」も育つ！！ ～求められる親支援とは？～

☆ 第5分科会 中学生・高校生の居場所づくり

なかま × やるき = 無限大∞ ～夢を現実にできる場所 中学生・高校生の可能性を求めて～

☆ 第6分科会 ボランティア

生き × 生き ボランティア ～ボランティアさいこう！！～

※さいこう⇒再考・最高・（児童館に）さあ一行こう！

☆ 第7分科会 遊び

あそび！メガ盛り！！ ～“わくわく”“ドキドキ”あそんでいますか？～

☆ 第8分科会 命のメッセージ

いろいろな角度から考えてみよう！ ～子どもたちに伝えたい！命のメッセージ

☆ 第9分科会 表現活動

笑顔のおかわり！ ～表現活動から広がるココロの交流～

☆ 第10分科会 野外体験活動

身近な自然体験からはじまる子どもの成長 ～野外へ飛び出そう！！ 北の国から2011秋～



第1分科会 児童館の可能性

挑戦! 児童館のもつ可能性を求めて!

～それぞれの立場で本音を語ろう 児童館改革は、ここからはじまる～

〔コーディネーター〕

財団法人 児童健全育成推進財団

事務局長 依田 秀任 さん

〔事例発表者〕

中標津町なかよし児童館 指導員 宮田 文子 さん

中標津町西児童館 指導員 大久保 さくら さん

中標津町わんぱく児童館 指導員 齊藤 和恵 さん



ねらい

児童館は、全国的に見ると激動の時期に入っており、廃止される児童館や機能が縮小される児童館がある。子どもたちにとって心と身体が解放できる唯一の場所である児童館の存在を揺るぎないものにするために、私たちができることは何かを考える。

内容

中標津町の事例発表

- ・『虐待ネットワークと児童館』
- ・『地域ネットワークと児童館』
- ・『中学生と赤ちゃんふれあい交流』

グループ討議

行政の立場、児童館の館長の立場、児童厚生員の立場に分かれ、困っていることについて話し（現状）、どうしてできないのかを考え（課題分析）、そして、できる方法を考える。自分でできる事、人の力を借りるとできること（資源）は何かを考える。

また、グループ内で話し合ったことを発表し、意見を出し合った。

参加者からの心に残った言葉

- ・同じ立場の方と話をすることで、互いに共感し合い、また、違う立場からの考えを聞くことで、新たな気づきや発見をすることができた。
- ・さまざまな立場の話聞くことで、初心に戻っていると感じることができた。
- ・現状のままだと児童館の可能性に限界を感じていたが、見方を変えたり、使い方を変えたりすると、可能性は無限大に広がると感じた。

まとめ

さまざまな立場の方からの意見や考えが多数あり、いろいろな話を聞くことができた。児童館だからできること。児童館しかできないこと。児童館でできないことも勿論あるが、見方を変えて、味方につければ児童館だからできることはたくさんあるのではないかと。これで、終わりということではなく、時代の変化によってやるべき姿ややるべきことも変化していくはず。人とのつながりが増え、自分の周りの資源に気づくことができれば可能性は広がるのではないかと。

第2分科会 地域ネットワーク

CNB47 ～日ごろからのネットワーク～

(C: 地域コミュニティ N: ネットワーク B: 話す場(BA) 47: 47都道府県)

〔事例発表者〕

社会福祉法人 神戸市社会福祉協議会
神戸市立有瀬児童館 館長 田谷 久恵 さん

〔コーディネーター〕

NPO法人コミュニティワーク研究実践センター
事務局長 穴澤 義晴 さん



ねらい

なぜ、地域とつながることが必要なのか？

他の児童館はどんなネットワークをつくっているのか。
参加者みんなで地域とのかかわりの重要性を今一度考える機会とする。

内容

○事例発表

「神戸市の児童館の取り組みについて」

○意見交換会

①各施設での地域ネットワークの現状と課題について

②課題の分類分け(6つ)

- ・地域とつながる方法とは
- ・今ある人材とのつながりを深めるためには何が必要か
- ・新たなネットワークとは
- ・ネットワークコーディネーターとして必要な要素とは
- ・新たな人材発掘とは
- ・連携してできる新たな企画とは

③グループ替えをし、課題解決へ向け意見交換

④グループ発表

○総評

事例発表者やコーディネーターより、アドバイス

参加者からの心に残った言葉

- ・たくさんの方のお話を聞くことができて良かった。
- ・テーマ以外の話しても他の参加者の方と話すことができて良かった。
- ・事例発表の神戸市の児童館の取り組みが参考になった。
- ・コーディネーターや事例発表者、スタッフの方々のおかげで、良い雰囲気の中で参加することができた。

まとめ

とても雰囲気の良い中で分科会を進められた。

神戸市の児童館の事例発表では、さまざまな地域との取り組みを行うごとに、一方では課題や悩みがあることもお話ししていただいた。

グループでの意見交換会では、最後に課題別グループにおいてみんなで課題克服に向けて考えることができた。地域ネットワークの重要性について、再確認する機会となり、短い時間であったが、実りある時間を過ごすことができた。

第3分科会 子どもの育ち

今を生きる子どもたちへ ～自分が自分でいられるために～

〔コーディネーター〕

北海道大学大学院 教育学研究院
教授 宮崎 隆志 さん

ねらい

自分自身が思っていることを素直に表現でき、自分自身の頭で考えて行動できる子どもの「自立」と、相手のことを思いやり、周囲の人たちときちんと人間関係（人と人とのつながり）を築いていける子どもの「共生」を根幹に、子どもへの支援をみんなで検討。

内容

○グループ討議・意見交換・発表

- ①「子どもたちの現状」
- ②「あるべき子どもの姿」
- ③「厚生員・指導員としての支援」

この①～③について、普段の業務を思い浮かべて意見を出し合い、「子どもたちの現状」をベースに「あるべき子どもの姿」に向かってどのような支援が考えられるかを9つのグループに分かれて検討。「KIT-PT法」を活用し、子どもに対する支援の大きな「木」の図を作製し発表。

○講評

最後に、全体をとおしてコーディネーターより子どもの現状、厚生員・指導員としての支援についての講評。

参加者からの心に残った言葉

- ・全国で頑張っている指導員のさまざまな考え方、子どもに対する熱い想いが伝わり有意義な時間を過ごすことができた。
- ・地域の差はほとんどなく、どこでも子どもたちの姿に共通するものが多くあった。
- ・原点を見つめることができた。
- ・たくさんの気づきがあった。
- ・厚生員として、母親としてたくさんのことを学ぶことができた。



まとめ

限られた時間の中で、各グループの参加者が真剣になって、子どもたちの状況や支援のあり方について議論した。

一人ひとりの子どもに対する厚生員・指導員としての支援は、子どもの数だけ存在し、現代社会にあってはその対応が大変複雑になっている。

自分自身の足でしっかりとこの社会に立ち、他者への「思いやり」を大切にできるように、支援について、みんなでもっと深く議論する必要があると実感した。

第4分科会 親育ち支援

「親」が育てば「子」も育つ!! ～求められる親支援とは?～

〔コーディネーター〕

札幌市教育センター

幼児教育担当係長 北 圭一 さん

ねらい

今、児童館とともに子どもの問題を考えながら、親育ちを切り口に考える。

内容

○自己紹介

自分を漢字一文字で表現。それを基に自己紹介。
立場や運営形態などについて情報交換を行った。

○グループ討議

- ①事例の出し合い、解決策について討議
- ②討議内容の発表
- ③コーディネーターから、「次の一手」「こんな時の手法」についてのアドバイス。

参加者からの心に残った言葉

- ・グループ討議とそれについてのコーディネーターの的確なアドバイスがあり、気持ちのもやが晴れた。
- ・親も先生もみんな頑張っている!! タイミングよくコミュニケーションをとり、笑顔で元気に頑張りたい。
- ・「親も認められたい」等、必要な親への対応については参考になる話がたくさんあった。また、経験がないということは「客観的に見られる」ということで自信になった。



まとめ

基本はいつでもウエルカム。マイナスを言わない、当たり前のことを褒める、うまくタイミングを合わせて相談に応じることが大切なポイント。

「ルビーのつぼ」片方を見ると片方は見えなくなる…「モンスターがモンスターでなくなる時」などそれぞれに響くキーワードがあったはず。今日のつながりを大切に、それぞれの現場で活躍を期待したい。

第5分科会 中学生・高校生の居場所づくり

なかま×やるき＝無限大∞

～夢を現実にできる場所 中学生・高校生の可能性を求めて～

〔事例発表者〕

札幌市あやめ野児童会館 館長 松田 忍 さん
1318HappyZone
運営マネージャー イ・ウンギョン さん

〔コーディネーター〕

東京都杉並区松庵児童館・宮前児童館
館長 片山 隆司 さん

ねらい

児童館が中学生・高校生の居場所として存在するため、どのような取り組みをするのが良いのかを考えるとともに、さまざまな地域の事例や情報交換を通して職員が繋がっていく。

内容

○コーディネーター講演

「なぜ児童館に中学生・高校生の居場所が求められるか」

○座談会～ラウンド1～「自己紹介・参加者の取り組み」

○事例発表

①「札幌市における若者サポートステーション」事業との連携

②韓国「1318HappyZone」の取り組み

③参加者からの事例報告

・京都市～継続的な事業の必要性（菜園プログラム）、中学生・高校生とのつながり（児童館とのメールアドレス交換など）と中学生・高校生の声を即座に事業実践する取り組み。

・松山市～利用者が大人になってからも子どもや孫を連れて来館するような継続したつながりをもった取り組み。

○座談会～ラウンド2～「中学生・高校生の居場所づくりに必要なことは？・居場所づくりに必要な取り組み」

参加者からの心に残った言葉

- ・子どもたちの声を聞いたらすぐに行動する『瞬発力』が大切だと思った。
- ・継続した利用や参加が重要。
- ・施設の中がいかに民主的であり、中学生・高校生同士が共存できるかがポイント。
- ・中学生・高校生は口コミが9割。
- ・地域は違えども、みなさん同じようなことで悩みながら頑張っているんですね。
- ・施設も大事ですが、やっぱり『人』が大事だと思った。



まとめ

居場所づくりを行っていく上で次のようなことが大事になる。

- ①事業自体の失敗や成功にとらわれず、中学生・高校生の成長に目を向ける。
- ②今回話したことや中学生・高校生の声を発信できるようにまとめ、地域での中学生・高校生の居場所づくりの機会に生かす。
- ③児童館だからできること、機能を高めて、中学生・高校生の居場所の選択肢を増やしていく。

第6分科会 ボランティア

生き×活き ボランティア ～ボランティアさいこう!!～
※さいこう⇒再考・最高・(児童館に) さあ一行こう!

〔事例発表者〕

中標津町 町民生活部子育て支援室子育て支援係
主事 板倉 みゆき さん
札幌市西宮の沢児童会館 指導員 中川 綾乃 さん

〔コーディネーター〕

財団法人 児童育成協会 こどもの城
事業企画部長 佐野 真一 さん

ねらい

ボランティア活動活性化のために必要な、職員のボランティアコーディネーターとしての資質を高める機会とする。

内容

2種類のテーマのワークショップを実施。児童館の職員だけではなく、児童館で実際にボランティア活動をしている方々も参加し、ディスカッションに加わり進行了た。

○ワークショップ1

「ながーくたのしいボランティア活動を創りだすコツ
～施設ボランティアのコーディネート～」

○ワークショップ2

「今なぜボランティアなのか!～児童館ボランティアの
今日的意義～」

○事例発表1

北海道中標津町の児童館でのボランティア活動(映像)

○事例発表2

札幌市の児童会館でのボランティア活動(映像)

参加者からの心に残った言葉

・ボランティアという言葉ではみんな構えてしまうので、いつもちょっとだけ気にかけて顔を出してくれる人を地域の中に増やしていきたいと感じた。

・自分の生き方をしっかりと言葉で再発見させてもらえた。自分が今行動していることの原点を話し合うことはなかなか無い。職員とボランティアが同じ場にいたからこそ感じられた。



まとめ

ワークショップは「ダイヤモンドランキング」「ワールドカフェ」という手法でディスカッションを実施。

「ワールドカフェ」では、お茶やお菓子を用意し、ゆったりとした雰囲気の中で会話をすることで、自由に意見を出し合い、積極的に思いを伝え合うことができた。最後は、一人ひとり、「今なぜボランティアなのか」を感じ取った言葉にして記入し、それぞれの思いを再確認し合い、スタッフの思いとボランティアの思いを確認し共有したひと時であった。

第7分科会 遊び

あそび!メガ盛り!! ~ “わくわく” “ドキドキ” あそんでいきますか? ~

〔コーディネーター〕

NPO法人 あそび環境Museum

アフタフ・バーバン 千葉 知江子 さん

ねらい

「改めて考えよう、あそびの大切さ」児童館になぜあそびが必要なのか、今不足しているあそびの要素とは何かを一緒に考える。

内容

○講話

「あそび」とは何か 表現活動としての「あそび」

○ワークショップ①

- ・心と体をほぐして
(準備体操、経験年数順に並ぶなど)
- ・「あそび」を実感
あそび合い(コミュニケーション)

○ワークショップ②

- ・実践で学ぶ「あそび」
似たもの探し(ミッションインポッシブル)

○グループ活動①

- ・「あそび」とは?を言葉で表現
- ・児童館にとって「あそび」とは?を話し合う

○グループ活動②

- ・情報交換

○まとめ

「あそび」を徹底的に考え、たくさん動いて、たくさん笑って遊んだ。

参加者からの心に残った言葉

- ・「あそび」について新しい考え方ができた。
- ・“わくわく” “ドキドキ” 楽しんだ。
- ・「あそび」の視点が変わりました。
- ・楽しくてあっという間に時間が過ぎた。
- ・子どもの笑顔が絶えないように「笑顔」で子どもたちと遊びたいと思う。
- ・「あそび」とは、「心のごはん」!



まとめ

遊びのネタ探しをテーマとするのではなく、遊びとは何かを根本から考え、学んだ。私たちはプロだからこそ、今、失いかけているあそびの力を信じ、実行していくことが大切だと学んだ。

遊びとは、コミュニケーションで成り立っており、誰かと遊ぶとき、そこに信頼感や安心感がないと遊びは始まらない。そのことを、ワークショップで実際に体験をし、遊び合うかかわりの中で、お互いを認め合い受け入れることが大事であることを学んだ。遊びに余白があることで、自分のやりたいことを表現でき、自分らしさを出すことで遊びの広がり・楽しさにつながっていくことを感じる事ができた。

第8分科会 命のメッセージ

いろいろな角度から考えてみよう!

～ 子どもたちに伝えたい! 命のメッセージ ～

〔事例発表者〕

札幌市円山動物園経営管理課経営係
朝倉 卓也 さん

〔コーディネーター〕

岩手県保健福祉部児童家庭課 長崎 由紀 さん

ねらい

命の大切さを日常の中でもっと伝えるためのさまざまな手段を知るとともに、児童館らしく楽しく遊びの中で命のことを伝える方法を考える。

内容

○グループ討議

はじめに、ケンカの場面を描いた4コママンガを使用して普段の子どもたちの様子を思いながら、なぜ「死ね」「消えろ」等の発言が出てくるのかを考えた。

○事例発表

①「命を身近に」

札幌市円山動物園の取り組みを紹介。

②「命のキャラバン」

この事業の中で行っている聴診器を使って心臓の音を聴く等という体験をした。

○グループ活動

子どもたちに命の大切さを伝える対象年齢別プログラム作りをグループで行い、その中の一つである「命について考えるフルーツバスケット“みんなだいすき”」を行った。

参加者からの心に残った言葉

・命のことを日常の中で、なかなか話すことがなかったことにあらためて気づいた。少しずつでも折りにふれて積み重ねられたら良いと感じた。

・子どもからの質問にすぐに答えを出しがちですが、問いかけに対してさらに問いかけることで答えを考えると、いう手法を知り、「はっ」とさせられた。



まとめ

「命」を具体的に表すということは、とても難しいことだが、みんな一人一人に大切な命があるということ、命について実感する体験活動をするなど、さまざまな言葉かけや遊びをとおして、児童厚生員らしく楽しみながら、少しずつでも子どもたちに伝えていけるように、明日からもがんばっていこうと感じた分科会だった。

第9分科会 表現活動

笑顔のおかわり! ～ 表現活動からひろがる ココロの交流 ～

〔提言者〕

劇団“風の子北海道” 演出家 中島 茜 さん

〔コーディネーター〕

財団法人 札幌市青少年女性活動協会

札幌市こどもの劇場 やまびこ座

館長 矢吹 英孝 さん



ねらい

子どもたちにとって大切にしてほしい豊かなココロの育ちを考える。明日からの「笑顔」を生み出す活動を一緒に考える。

内容

○コーディネーターより

「札幌市内児童会館の表現活動における現状の報告」を自身の活動事例を交え講話。

○提言者より

長年行っている表現活動において大切にしていること、子どもたちの可能性についての講話。

○ワークショップ

身近な素材を活用した演目、実践としてタングラム遊びの紹介。個人からグループへ発展し、グループで協力し、形やストーリーを作る。

○グループ討議・発表(シェアリング)

各館での表現活動を含む取り組みについての情報交換を行った。

参加者からの心に残った言葉

・とても楽しくて実りある大会でした。特に9分科会は、みなさん明るい方ばかりで、最高に楽しかった。

・はじめて、児童館の全国大会に参加して、いろいろと勉強させていただいた。スタッフも感動していた。まさに子どもに寄りそう姿勢が、児童館の役割のような気がした。



まとめ

「表現」とは、仲間とのコミュニケーション、相手にどのように伝えるかのコミュニケーションであり、コミュニケーション能力の向上が大切である。

子どもたちは未来そのものであり、子どもたちの遊んでいる姿がすべて表現活動になっている。そんな、子どもたちと触れ合うときには、ココロも体も開いて向き合っていくことが大切である。

分科会では、表現の理解を深め、参加者の笑顔が輝いていた。

第10分科会 野外体験活動

身近な自然体験からはじまる子どもの成長
～野外へ飛び出そう!! 北の国から 2011秋～

〔コーディネーター〕

財団法人札幌市青少年女性活動協会
札幌市青少年山の家

事業係長 山田 憲克 さん

ねらい

自然の中で遊ぶ楽しさを知り、心身ともにたくましい子どもが育つために私たちができることを考える。

内容

○室内レクリエーション体験

「外遊びの魅力を知ろう」

コンベンションセンター大ホールに竹ドームを参加者全員で作成！日常活動の枠をちょっとだけ越えると、初めての体験にワクワクドキドキ、参加者同士で楽しむうちに、新しい遊びも生まれた。

○情報交換

「自然体験アラカルト」

参加者の皆さんが日ごろ行っている活動について情報交換！児童館で何気なく行っている活動にも、視点を変えると自然体験活動につながるヒントがたくさん含まれていた。

○ワークショップ

「身もココロもたくましい子どもに育つには」

水たまりも落ち葉も、子どもにとってはすべてが遊ぶ道具！自然の中で遊ぶ子どもたちを見つめてきた講師の体験をもとに、身もココロもたくましい子どもを育むために児童館職員にとって大切な視点を考えた。

参加者からの心に残った言葉

- ・第10分科会で良かった。
- ・みんなが自分の活動にこれほど興味を持つとは思わなかったが、これからさらに活動内容を広げていきたいと思った。
- ・実践してみようと思うネタがたくさんあったので、館に戻ったらやってみようと思う。
- ・あれもダメ、これもダメって言うてるが、ちょっと工夫すれば遊べるようになるかもと思った。



まとめ

『体験』そのものが不足している現在、そして自然の中で遊ぶことよりも一人テレビやゲームに興じることが多い子どもたち。そうした子どもたちに自然の中で遊ぶ楽しさ、友だちと遊ぶ楽しさを伝えていきたい。

私たち職員が体験し、情報を共有し、周りの人の手を借りることで、無理をせずに活動の幅は広がり、見方を変えることで身近な素材も自然体験になる。

自然は、私たちにいろいろなことを教えてくれる。子どもの視点を忘れずに、私たち児童館職員も気軽に野外へ飛び出そう！



交流会

場所：札幌コンベンションセンター 大ホール

日時：10月22日 18:00～20:00



会場は、立食形式で約350名の方に参加をしていただきました。



交流会では、さっぽろ人形浄瑠璃芝居『あしり座』による三番叟（さんばそう）の上演もありました。



次回開催、あいち大会のメンバーによる、ダンボールの甲冑のパフォーマンスは「素晴らしい！」の一言でした。



余興の「わたしのまち自慢」では、各県や市町のみなさんが大いに盛り上げてくれました。



韓国からの参加者にも、盛り上げに一役買っていただきました。



この後の2次会にもたくさんの参加をいただきました。北海道の味覚を楽しみながら、交流が深まり一人ひとりのつながりと絆が強くなった一夜と感じました。



じゃ〜んずΩの再登場により、会場の盛り上がりは最高潮に達しました。

第1シンポジウム「遊び」 「遊びの力」が子どもの「生きる力」を育む

<シンポジスト>

★ 札幌市教育センター 幼児教育担当係長 北 圭一 さん

★ 財団法人 札幌市青少年女性活動協会 こども事業部 こども育成課 児童会館担当課長 松岡 節子 さん

<コーディネーター>

★ 東京都中野区立キッズ・プラザ白桜 所長 / 全国児童厚生員研究協議会 会長 千葉 雅人 さん

「赤」と「緑」の意思表示カードが参加者に配布され、コーディネーターやシンポジストからの設問に参加者が答えながら進行。また、関連する4つの分科会からのそれぞれの持ち味を生かした発表も含め、2日間にわたっての「つながり」を短時間に感じることができた。



「遊びの中で自発性や自主性が見えた経験は？」

この質問を参加者全体にしたところ、9割近くが「経験あり」に手をあげていた。

このことは、さすがみなさま大切なことをつかんでいると嬉しくなる一面だった。同時に、この全国大会のような場での交流やつながりが、課題意識をもって取り組んでいる方々の収穫の時だと感じた。会場からは、他者とのかかわりが難しいと思われた子どもが、友だちができることで非常に生活が変わった事例が紹介された。



「遊びはココロのごはん」

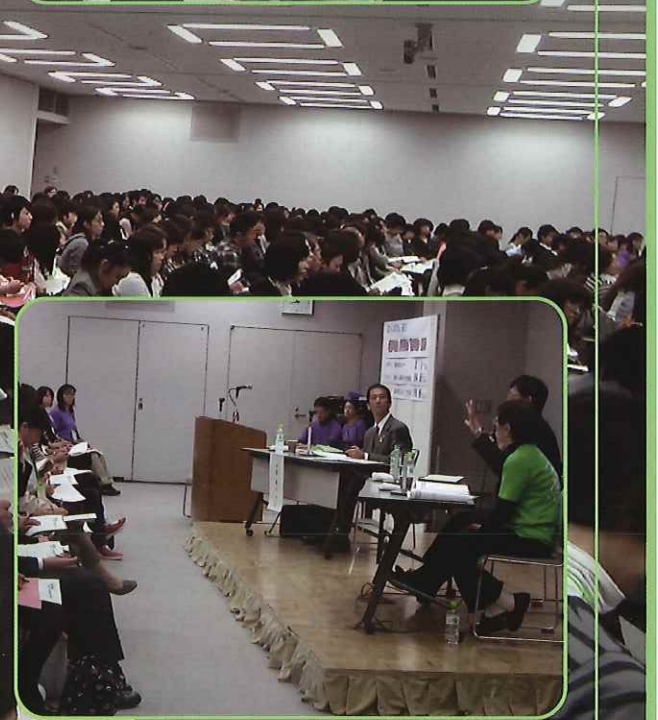
「遊び」の分科会の発表の中にあつた言葉。毎日食べるごはんのように、「遊び」は元気の素。これをやったから、こうなるというようなものではない。子どもにとっては、遊びがすべてである。

「スタッフは触媒」

今までプロとして、どこかで子どもを遊ばせなくてはならないという意識が強かったが、むしろ子どもの変化を促す触媒のような働きが求められる。

触媒のすばらしいところは、相手が変わりてやがて自分が見えなくなるということで、主体が子どもたちということを確認できた。

「答えは、みなさんの中にある」・・・という発言が印象的でした。すでに現場で対応している中に、今後の課題解決の糸口があります。また、コーディネーターからは全国大会でのつながり、そして児童館ガイドラインの中に「遊び」が位置づけられたことを誇りに、業務に向かっていきましようと呼びかけ、それぞれが、次の日からの新しいスタートにつくことができた。



第2シンポジウム「地域」

地域は人材の宝～児童館とのネットワークを広げよう～

<シンポジスト>

★ 財団法人 児童育成協会 こどもの城 事業企画部長 佐野 真一 さん

★ 中標津こどもクリニック 院長 栗山 智之 さん

<コーディネーター>

★ 財団法人 札幌市青少年女性活動協会 こども事業部長 寺田 陽子 さん

「地域の可能性」と「ボランティアとの協力のあり方」を大きな道筋として、団扇を使い会場参加型で進行。終始和やかな雰囲気です。

「シンポジストの幼少期の写真を見ながら」

時代が日本の高度成長期。しかし、児童館は周囲になく、地域の大人とのかかわりでいろいろなことを学びながら、地域の中で遊んでいた。(佐野・栗山)

佐野：子どもが成長する上で、必要な大人が3人。そのひとりが地域の人でさまざまな価値観を持った大人たちとの出会いが大切。

栗山：今の子どもが変わったと言われがちだが、身近な大人の真似をしているだけで今も昔も子どもは全く変わっていない。

「どのような人材の地域ボランティアを受け入れているか」

多数の会館が複数のボランティアを受け入れている。その大半は読み聞かせ、伝承遊びなどの事業に協力。そのほかにもいろいろな大型事業などにも参加協力がある。

「会場から事例紹介」

札幌市青葉児童会館では、地域の退職校長が長期休業時に子どもたちに勉強を教え、子どもたちとの関係性を築くために遊びも大切にしている。保護者からも大好評である。

「ボランティアの発掘は」

栗山：まずは地域のたくさんいる子ども屋さん（学校・児童館・小児科など子どもに関わる人たち）が視野を広く持ち、連携して子育てを支援することが必要になってきている。

自分がかげがえのない大切な存在であると思えない若者が多く、若い世代の自己肯定感を高めることが大切。そのために、地域と児童館が連携する意味がある。

ボランティアは地域の風！窓を開けて地域の風を受け入れて、職員もボランティアと一緒に飛び出そうと、会館運営のヒントと熱い思いをたくさんいただいた。



第3シンポジウム「職員の専門性」

0~18歳の子どもに寄り添う職員とは? 「専門職と専門性のミカタ (見方と味方)」

<シンポジスト>

★ 東京都杉並区 松庵児童館・宮前児童館 館長 片山 隆司 さん

★ 北星学園大学文学部 心理・応用コミュニケーション学科 専任講師 片岡 徹 さん

<コーディネーター>

★ 中標津町 町民生活部子育て支援室 室長 高松 絵里子 さん

コーディネーターの見事な仕切りとシンポジストの絶妙な掛け合いでテンポ良いフリートークのようなシンポジウムが展開された。

ニーズは高いが見えづらい

児童館職員の業務は多岐に渡り、社会のニーズも高いのが現状。一方で専門性が外から見えにくいためわかりやすく見せていくことが課題である。

社会的認定とバックアップも必要

児童館の専門性をわかりやすく文言化したのが、ガイドラインの長所。社会的認知のためにも今後活用をしていきましょう。

現在は、健全育成に子育て機能も加わりました。児童館本来の遊びをベースに新たに展開するには、職員のバランス感覚が重要。

採用後、すぐに専門性は発揮できない

経験を積みスキルを高めていく修行のようなもの。味のある職人(専門家)を目指しましょう。同じことをするにも子どもたちは千差万別。実態に合わせてサポートの内容と量を配分できるのが専門性。

専門性を見方を変えれば味方につけられるものや可能性が広がる。夢と自信をもって職務に励みましょう。

常に変化する児童館を取り巻く現状に対応するバランス感覚と、地域・ヒト・モノをつなげていくコーディネート力が専門性。しかし、知識・スキル・経験だけでなく、専門性を支える大切なものは「職員の思い」でした。参加者はいろいろな『思い』を通して、自分自身の中にある「専門性」を見つめ直し、味方につけることができたのではないのでしょうか。



エンディングセレモニー

子どもの発表

中標津町の児童館職員が全国大会のプロジェクト会議のため札幌に。新たな会館建設をするにあたり札幌の児童会館を参考に、東札幌児童会館に視察に訪れたのがきっかけ。

その時に、東札幌児童会館のポンポンダンサーズの子どもたちが「私たちのDVDを見て！」と熱烈アピール！

中標津町なかよし児童館では、「バトンクラブ」が活動していることもあり、コラボレーションの企画が立ち上がった！



次回開催「あいち大会」へ引き継ぎセレモニー
この北海道のヒグマをイメージした手作りの「あみぐるみのクマ=くま吉」の贈呈と来年のPR

全国児童館・児童クラブ北海道大会テーマソング

- | | |
|---|--|
| <p>1
すずらんさくドキドキな春
始まりの合図
ちよっぴり緊張するけれど
小さな声で「はじめまして」</p> <p>ラベンダーさくキラキラな夏
太陽と仲よし
海にプールにハイキング
短い夏をたのしもう</p> <p>◎とても元気なぼくたち
とても元気なわたしたち
窓から聞こえてくる笑い声
たのしいことがまってる</p> <p>☆いつも笑顔なぼくたち
いつも笑顔なわたしたち
悲しい心は半分
楽しいことは無限大</p> <p>今日も行こうよ じどうかん</p> | <p>2
リンリンホクホクな秋
ハマナスも咲いてる
みんなで芋ほりわっせっせ
落ち葉にくるまりかくれんぼ</p> <p>しんしん舞う雪つもる冬
そりすべりに雪合戦
元気なゆきんこ どさんこ
しばれる冬も元気いっぱい</p> <p>◎くりかえし
☆くりかえし</p> <p>明日も行こうよ じどうかん
(ラララ…)</p> <p>明日も行こうね じどうかん
(間奏)</p> <p>◎くりかえし
☆くりかえし</p> <p>明日も行こうよ じどうかん</p> |
|---|--|

次の開催地である愛知のみなさん



北海道大会スタッフ整列



テーマは『北海道の児童館の四季と遊び』（CDは最終ページ）

児童館に関する全国発議

三・一一東日本大震災は、子どもたちの遊び場や居場所など多くの大切なものを消失させました。特に、東北沿岸部では、児童館や放課後児童クラブにも大きな被害がありました。折しも、全国の児童館数は減少し、活動内容にも地域格差が目立つようになってきました。大震災から二十日後、厚生労働省より発出された『児童館ガイドライン』が、一筋の光明となることを期待してやみません。児童館が今後ますます社会的役割を果たすため、『第一一回全国児童館・児童クラブ北海道大会』において次の通り発議します。

- 一、『児童館ガイドライン』を基準に置きつつ、子どもや利用者の視点からよりよい運営をおこない、活動面での地域格差をゆるやかに解消していきます。
- 一、乳幼児から小学生、中・高校生までの『すべての子ども』の『遊び』と『生活』の地域拠点として子ども主体の積極的な取組を展開します。
- 一、地域の総合的な子育て支援の拠点施設として、よりきめ細やかな事業を提供し、児童虐待への対応と予防を強化します。
- 一、児童館・放課後児童クラブの職員としてふさわしい倫理規範を持ち、児童福祉施設としてのコンプライアンスを向上させます。
- 一、ソーシャルワーク機能を強化し、学校や行政機関と連携し、子ども・家庭・地域の諸問題に対応しうる児童厚生員の専門性の確立を目指します。

以上の実践をもって、児童館（子どもの健全育成）を今後の子ども家庭福祉の主要課題として据えられるように社会的に発信します。

平成二十三年一月二三日

第一一回 全国児童館・児童クラブ北海道大会 参加者一同

【右に賛同する団体】 全国児童厚生員研究協議会・財団法人児童健全育成推進財団

なか しべ つ
韓国・中標津町なかよし児童館・東札幌児童会館の交流事業



お出迎えをするぼんぼこ隊



韓国の方とくす玉割り



菊水小ミニ児童会館のお友達

お手玉披露



韓国の方が韓国の遊びを教えてくださいました

じゃんけん列車のようなあそび



韓国の方に着てもらいました



白石小ミニ児童会館のお友達

コマ



棒を筒の中に入れるゲーム



韓国のみなさんと集合写真



けん玉



最後に韓国の方といっしょにこども盆踊りを踊りました

韓国の方と東札幌児童会館の子どもたちが交流しました。

保護者の方たちが見守る中、公開合同練習



朝はみんなでラジオ体操をしてからスタート!

東札幌児童会館の保護者のみなさまや地域の方たちがつくってくれたカレーを食べたよ!

中標津町なかよし児童館

なかよしパトクラブ&ボンボンダンスズ コラボレーション



なかよしパトクラブ&ボンボンダンスズ みんなで記念撮影



たくさんの拍手が! 踊ったメンバーは、とっても喜んでいました★

協賛企業

株式会社 アドバコム	株式会社 損害保険 ジャパン
株式会社 アトリエ北海道	高久塗工株式会社
イーアス札幌	タケヤ刷子工業株式会社
居酒屋 親不孝	株式会社 舘野オフィスサービス
有限会社 エイチ・ビー・エヌ	ちいさなえほんや ひだまり
auショップキャポ大谷地 城山電子株式会社	チャイニーズキッチン 味彩
株式会社 M・K中田商会	エスニック・セレクトショップ チャンディ・ダサ
株式会社 エルム楽器	帝国セキュリティ株式会社
株式会社 大倉産業	東海建設工業株式会社
小野薬品工業株式会社	ドリームキッズバスケットボールクラブ
株式会社 オフィスプランニング	有限会社 中澤電気商会
加藤建設株式会社	有限会社 南陽堂書店
カプラ日本総代理店 アイ・ピー・エス	日本プレイセンター協会
株式会社 カワバタ 札幌営業所	ハンズオントーイキンダーリース
株式会社 キタデン	Pikake Ohana
株式会社 きのとや	響きの杜クリニック
株式会社 共立文具	ヒューマンアカデミー株式会社
有限会社 クローバー観光	富士ゼロックス北海道株式会社
KDDI株式会社	富士フィルム株式会社
株式会社 建匠	有限会社 伏見インテリヤ
札幌紅茶専門店 ディコヤ	株式会社 プランニング・ホッコー
コクヨ北海道販売株式会社	株式会社 ボーネルンド
小林兄弟自動車工業有限会社	北星学園大学・北星学園大学短期大学
有限会社 札幌衣装	北菱産業埠頭株式会社
有限会社 札幌第一こどものとも社	北海学園大学
札幌大学・札幌大学女子短期大学部	北海道合気道協会
札幌トヨベツト	北海道オフィスマシン株式会社
札幌人形劇協議会	釧路専門学校 こども環境課
さっぽろ村ラジオ	北海道ガス 株式会社
札幌幼児保育専門学校	北海道コカ・コーラボトリング株式会社
株式会社 食品急送	北海道ペプシコーラ販売株式会社
株式会社 杉山燃料センター	株式会社 スクウェア
株式会社 スポーツショップイシダ	マッキナフォトグラフィカエンスージアスタ社
株式会社 スポーツショップ古内	株式会社 三好商会
株式会社 スポーツハウス	有限会社 安田合同保険事務所
相互通商株式会社	大和技建株式会社

(敬称略)

みなさまの多大なご支援をいただき、北海道大会が
充実した2日間となりました。
実行委員会一同、心から感謝申し上げます。

第11回 全国児童館・児童クラブ北海道大会 スタッフ 役割一覧

親分・BOSS

大会実行委員会・事務局

大会内容最終決定機関
 経理
 来賓・講師等調整



縁の下の力持ち

マネージメント

会場（札幌コンベンションセンター）との交渉
 名簿・名札作り
 物品調整
 タイムスケジュール作成
 旅行代理店 との交渉



企画

プロジェクトメンバーの意見取りまとめ
 各担当のパイプ役・調整役
 プロジェクト会議進行
 特別報告会調整
 協賛関係窓口

何でも屋・便利屋



IT・メディアチーム

広報

事前PR（各報道機関リリース）
 PR映像作りラジオ出演）
 当日配布資料
 ブログ 当日の記録
 画像・映像・ユーストリーム
 Tシャツデザイン作成・発注
 当日かわら版
 報告書（案）作成



セレモニープランナー

開閉会式・交流会

コンベンションセンター会場レイアウト
 開閉会式と交流会の司会進行・音響
 北海道大会テーマソング作成
 開閉会式スライドショー作成
 「じゃ〜んずΩ」との出演交渉
 愛知への引き継ぎ「くま吉」作製



演出家

分科会

分科会のねらいや内容作成
 分科会タイムテーブル作成
 コーディネーターや講師との打ち合わせ
 分科会の当日司会・進行



遊びの紹介

「あそびの日本一周どうでShow」企画
 全国の遊び集約
 会場（イーアス札幌）との交渉
 札幌市子ども運営委員会との連携

イベント屋



行き先案内人

ミニシンポジウム

ミニシンポジウムのねらいや内容作成
 ミニシンポジウムタイムテーブル作成
 シンポジストとの打ち合わせ
 ミニシンポジウムの当日司会・進行



韓国

韓国から来た参加者の対応・通訳
 スタッフ向け事前韓国語講座

ツアーコンダクター



デザイナー

装飾

交流会会場の装飾作成



そして、当日の主人公は大会に参加したすべてのみなさんです。

全国児童館・児童クラブ北海道大会実行委員会

実行委員会

NO	役職名	氏名	所属
1	委員長	小川 敏雄	財団法人 札幌市青少年女性活動協会 理事長
2	副委員長	西田 雅之	北海道児童館連絡協議会 会長
3		依田 秀任	財団法人 児童健全育成推進財団 事務局長
4		千葉 雅人	全国児童厚生員研究協議会 会長
5		駒込 政彦	北海道保健福祉部子ども未来推進局 参事
6		金田 瑞枝	札幌市子ども未来局 子ども育成部長

実行委員会(事務局)

NO	役職名	氏名	所属
1	事務局長	寺田 陽子	財団法人 札幌市青少年女性活動協会 こども事業部長
2		阿南 健太郎	財団法人 児童健全育成推進財団 課長
3		古野 由美子	財団法人 児童健全育成推進財団 主任
4		高松 絵里子	中標津町町民生活部 子育て支援室長
5		山野辺 龍人	恵庭市保健福祉部子ども未来室子ども家庭課 主査
6		堂前 敦	江別市健康福祉部子育て支援室子ども家庭課 係長
7		村田 和陽	江別市企画政策部政策調整課 主査
8		五十嵐 健二	財団法人 札幌市青少年女性活動協会 こども育成課長
9		志賀 和行	財団法人 札幌市青少年女性活動協会 児童会館管理課長
10		松本 弘美	財団法人 札幌市青少年女性活動協会 こども育成課 運営係長
11		高坂 美江	財団法人 札幌市青少年女性活動協会 児童会館管理課 管理係長
12		高橋 雅裕	財団法人 札幌市青少年女性活動協会 こども育成課 調整係長

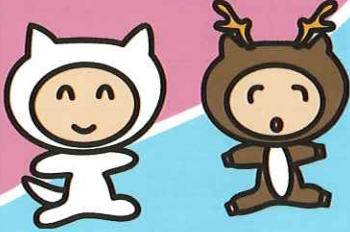
企画運営委員

NO	市町村	氏名	所属	役職	担当
1	中標津町	宮田 文子	中標津町なかよし児童館	指導員	児童館の可能性
2	中標津町	大久保 さくら	中標津町西児童館	指導員	児童館の可能性
3	中標津町	齊藤 和恵	中標津町わんぱく児童館	指導員	児童館の可能性
4	江別市	北島 知亜希	江別市萩ヶ岡児童センター	児童厚生員	子どもの育ち
5	江別市	吉江 似久子	江別市萩ヶ岡児童センター	児童厚生員	子どもの育ち
6	江別市	吉田 由香里	江別市野幌ひまわり児童センター	児童厚生員	子どもの育ち
7	恵庭市	本間 華代	恵庭市児童館	指導員	遊び
8	札幌市南区	斉藤 美季	札幌市澄川児童会館	係長	企画
9	札幌市中央区	大水 千広	札幌市円山西町児童会館	主任指導員	命のメッセージ
10	札幌市中央区	田畑 利恵	札幌市円山西町児童会館	指導員	命のメッセージ
11	札幌市中央区	川村 展由	札幌市緑丘児童会館	指導員	野外体験活動
12	札幌市中央区	土井 知明	札幌市苗穂はるにれ児童会館	主任指導員	野外体験活動

NO	市町村	氏名	所属	役職	担当
13	札幌市中央区	山川 元喜	札幌市円山児童会館	指導員	開閉会式
14	札幌市中央区	安田 行宏	札幌市山鼻かしわ児童会館	主任指導員	広報
15	札幌市中央区	高杉 学人	札幌市中島児童会館	指導員	広報
16	札幌市北区	森脇 知子	札幌市篠路児童会館	主任指導員	マネジメント
17	札幌市北区	玉澤 慶美	札幌市新琴似児童会館	指導員	遊びの紹介
18	札幌市東区	小森 珠恵	札幌市栄西児童会館	主任指導員	企画
19	札幌市東区	伊藤 有希	札幌市ひのまる児童会館	主任指導員	遊び
20	札幌市東区	岩崎 尚美	札幌市丘珠ひばり児童会館	主任指導員	開閉会式
21	札幌市東区	渋谷 夏紀	札幌市元町南児童会館	指導員	表現活動
22	札幌市東区	田中 美智子	札幌市札苗児童会館	指導員	開閉会式
23	札幌市白石区	平木 宏朋	札幌市北東白石児童会館	主任指導員	遊びの紹介
24	札幌市白石区	濱之上 由紀子	札幌市菊水やよい児童会館	主任指導員	広報
25	札幌市白石区	川添 晶	札幌市東白石児童会館	主任指導員	中高生
26	札幌市白石区	榎井 亜実	札幌市東橋小ミニ児童会館	指導員	広報
27	札幌市白石区	細川 綾	札幌市菊水元町児童会館	指導員	親支援
28	札幌市白石区	花田 麻子	札幌市大谷地小ミニ児童会館	指導員	開閉会式
29	札幌市厚別区	山岸 千奈美	札幌市もみじ台児童会館	主任指導員	遊びの紹介
30	札幌市厚別区	榊原 由美	札幌市もみじ台ふれあい児童会館	指導員	韓国
31	札幌市豊平区	佐々木 司	札幌市月寒児童会館	主任指導員	地域ネットワーク
32	札幌市豊平区	本田 英俊	札幌市平岸児童会館	主任指導員	中高生
33	札幌市豊平区	菊地 由紀子	札幌市中の島児童会館	指導員	野外体験活動
34	札幌市豊平区	荒木 美穂	札幌市南月寒小ミニ児童会館	指導員	遊びの紹介
35	札幌市豊平区	小西 望美	札幌市平岸高台小ミニ児童会館	指導員	遊び
36	札幌市豊平区	増田 万智子	札幌市東山小ミニ児童会館	指導員	命のメッセージ
37	札幌市清田区	倉住 敏子	札幌市北野台児童会館	主任指導員	親支援
38	札幌市清田区	荒木 聡子	札幌市北野児童会館	主任指導員	企画
39	札幌市清田区	南部 まや	札幌市清田緑小ミニ児童会館	指導員	野外体験活動
40	札幌市南区	柴田 由香	札幌市石山児童会館	主任指導員	企画
41	札幌市南区	三浦 雅司	札幌市みすまい児童会館	主任指導員	命のメッセージ
42	札幌市南区	齋藤 弘子	札幌市澄川児童会館	指導員	表現活動
43	札幌市南区	飯高 祥之	札幌市藤野児童会館	指導員	中高生
44	札幌市南区	福井 宏充	札幌市みすまい児童会館	指導員	地域ネットワーク
45	札幌市西区	津元 聖子	札幌市手稲東児童会館	主任指導員	表現活動
46	札幌市西区	大口 智	札幌市八軒北児童会館	主任指導員	広報
47	札幌市西区	鈴木 恵子	札幌市西園小ミニ児童会館	指導員	広報
48	札幌市西区	金井 麻由子	札幌市西野児童会館	指導員	韓国
49	札幌市手稲区	橋本 晴美	札幌市あけぼの児童会館	主任指導員	企画
50	札幌市手稲区	吉原 朝子	札幌市西宮の沢児童会館	主任指導員	ボランティア
51	札幌市手稲区	石井 照久	札幌市新発寒児童会館	主任指導員	開閉会式
52	札幌市手稲区	中川 綾乃	札幌市西宮の沢児童会館	指導員	ボランティア

またーと

2010.11.3
プレ大会終了後に
「全国児童館・
児童クラブ北海道大会」
の実行委員会発足



2010.12
プロジェクト
メンバー
(企画委員) 募集!!

2011.1
企画メンバー
選出

企画メンバー
のみプチ会議

2011.3.4
第1回プロジェクト会議
どんな大会にしたいか?
コンセプトは?



プロジェクト
メンバー
交流会
1回休み

2011.8
装飾ワーキング
メンバー募集!
韓国語講座開始

参加できない人
へも発信したい!
USTREAM
配信計画

2011・7
テーマソング募集!
ブログの活用!
協賛企業回りリスタート

開催要項
発送!!

特別報告会
内容(案)
作成

2011.9
装飾ワーキング
説明会
装飾(案)作成

各分科会ごとに
迫熱論議!
コンセプトを再度確認
16歩もどる!?

9月末
Tシャツ完成!

2011.10
参加者確定!
あそびの紹介
47都道府県出揃う!

テーマソング
完成!!

特別報告会
スライド完成!

オープニング
スライド完成!!

2011.10.7
全スタッフ会議
(コンセプト確認、
タイムテーブル説明、
スタッフTシャツ販売)



あそびのくに 北海道大会 までの軌跡

コンセプト決定!!

2011.3.11
東日本大震災を受け、大会開催について悩む
1回休み

開催に向け、
方向転換
3歩すすむ



- ・たくさん話したい!
(だから移動は少なく...)
- ・参加者が参画!
- ・児童館の主役である子どもとふれあいたい! (子どもも参加)
- ・ウェルカムの心を大切に!
- ・北海道のネットワーク強化!

3月中に
役割を明確に!

2011.4
組織図(案)作成
担当(役割)希望調査!
大会テーマ決定!!

「こころひとつに北の大地から“元気”はっしん!!」

分科会の
テーマを考える

2011.5
大会要項(案)
の内容を詰める!
「じゃ〜んずΩ」
出演決定!!

ミニシンポジウム
実施決定!

悩み多し。
コンセプトに
立ち返る
6歩もどる。

第2回
実行委員会

2011.6
中標津町と札幌市の
児童館のコラボ決定!
プロジェクトメンバー
追加募集! 交流会実施



2011.10.22-23
大会当日
総参加者数
のべ953人
遊びの紹介
2,000人

報告書作成
開始!
(Only oneを
めざして...)

12月
報告書発送!

11月
プロジェクト
ふりかえり!

東札幌児童会館
・韓国交流!
・中標津町なかよし
児童館交流

おつかれさま!
そして、ありがとう!

Tシャツ売上げ
義援金
116,000円



児童館の可能性追究
地域連携の在り方など探る



第一回全国児童館・児童クラブ北海道大会が、この「あそびの日」本一周年でshow(ショー)が22日、札幌市白石区のイーストホールで開かれた。会場は集まった子供たちでいっぱいになり、工作やゲームを楽しんだ。同市内で開かれていた第11回全国児童館・児童クラブ北海道大会の一場面。会場には北海道、山形、茨城など約10の道県ごとにブースを開

第11回全国児童館・児童クラブ北海道大会

の「あそびの日」本一周年でshow(ショー)が22日、札幌市白石区のイーストホールで開かれた。会場は集まった子供たちでいっぱいになり、工作やゲームを楽しんだ。同市内で開かれていた第11回全国児童館・児童クラブ北海道大会の一場面。会場には北海道、山形、茨城など約10の道県ごとにブースを開



特別報告では、「東日本

なかでは、中津町の児童館、また、地域子どもたちの問題を報告した。虐待の協力も養護つりに取り組んだ実践も映像報道事例について、町子青告していた。

全国の児童館で取り組んでいる遊びを紹介する「あそびの日」本一周年でshow(ショー)が22日、札幌市白石区のイーストホールで開かれた。会場は集まった子供たちでいっぱいになり、工作やゲームを楽しんだ。同市内で開かれていた第11回全国児童館・児童クラブ北海道大会の一場面。会場には北海道、山形、茨城など約10の道県ごとにブースを開

ミカンの皮にお絵かき
札幌で児童館・クラブ道大会
各地のユニークな遊び紹介

設。子供たちはミカンの皮に絵を描いて切り込みを入れ、動物などを形づくる「みかんのかわりアート」(愛媛県)や、宝貝とビーズで作るストラップ(沖縄県)など、手軽にできる工作に挑戦した。ホップリを入れた卵の殻を布などで飾り付けする「エッグポプリ」(兵庫県)に取り組んだ発達障害小6年の坂井まなみさんは「好きな布をはれるのが楽しかった。」と笑顔で話していた。(小森美香)

講師役の児童に教わりながら、ミカンの皮に絵を描く子供たち

↑
平成23年10月22日
北海道新聞 掲載

←
平成23年11月8日
北海道通信 日刊教育版 掲載

北海道大会 スタッフ全員集合





2011年12月16日 発行

企画・編集

第11回全国児童館・児童クラブ北海道大会 実行委員会

発行

第11回全国児童館・児童クラブ北海道大会 実行委員会 事務局

財団法人 札幌市青少年女性活動協会

〒063-0051

札幌市西区宮の沢1条1丁目1番10号

TEL 011-671-4121



元気スイッチ
ON!!
全国
児童館・児童クラブ
あいち大会